

日華實業

(第六卷第一號)

一 月 號

本號主要目次

哀 辭

今上天皇即位改元

日 文

支那を中心として……………一

廣東政府の實情……………三

中華民國々民政府建國大綱……………四

銀價暴落の吾國對支貿易に及ぼせる影響……………六

華 文

丙寅年之回顧……………九

日華新趨勢……………九

民國要聞彙紀……………一一

華僑記事……………一二

文苑……………一三

日華實業協會編纂部發行

悼

敬

銘酒 富久娘

釀造元

兵庫縣攝津灘西郷町新在家

神戸市榮町五丁目

花
木
神
戸
支
店

電話 元町(最) 二一五七番
一七六一番

大阪市西區立賣堀北通二丁目

花
木
大
阪
支
店

電話 新町(六) 六七五番
九番

花
木
本
家
商
店

電話

(算合) 三七六三番
御影 二九七三番
三六〇三番

東京市神田區連雀町十八番地

花
木
東
京
支
店

電話 神田(四) 六九番
二七六番

横濱市花咲町四丁目五五

花
木
横
濱
出
張
所

電話 長者町(四) 六六番
一六三〇番

哀辭

大正十五年十二月二十五日午前一時二十五分

大日本帝國

天皇陛下 崩于葉山離宮 中外臣民 同深哀痛 莫可言喻 恭維

大行天皇 御宇十有五年 聖壽四十有八歲 續承大統 鞏固邦基 乃聖乃神

至仁至勇 導萬國之和平 錫庶民之幸福 方冀長享遐齡 永浴厚澤 豈

期哀詔遽頒 天地異色 攀龍髯而瞻依失所 念鴻德而圖報無時 哀悚陳

詞 伏祈

天鑒

今上天皇即位改元

十二月二十五日

今上天皇 踐祚登極 即日改元爲昭和元年 頒詔
天下 中外臣民 遵奉正朔 自即日起 改爲昭和
元年 以示大日本帝國 萬世一系 聖德昭垂 如
日月之經天 有世界和平 君民一致之義云

大行天皇聖躬違和情形補錄

自宮內省發表聖躬違和。全國內外臣民。同切憂慮。上自皇后。攝政太子。太子妃。各內親王。各皇族。元老大臣。內廷閣僚。地方文武百官。以迄士農工商。海陸軍人學生。外國僑民等。均同深愛戴。每日各報館在號外刊佈脉案情形。朝夕數次。臣民憂慮。群詣神宮寺廟。爲聖躬祈禱平癒。虔誠致敬。十二月十七日起。全國戲院酒樓妓館。游樂場所。均休業祈願。懇切誠敬。尊君愛國之心。洵屬罕見。天心感格。二十日聖躬小康平癒。日有起色。國人愁眉驟放。各國務大臣。在葉山離宮。伺奉多日。有遄返東京治事者。備預廿五日國會開院。攝政臨幸該院。行開院禮式。詎料廿二三日發表脉案。體溫計至三十八度。增加咳嗽及下肢浮腫現狀。各元老大臣等。復同往葉山伺奉。攝政亦擬不往臨幸議院開式禮。全國臣民。同在憂思遠慮中。且年關在即。擬將年終歲首。慶賀贈答各虛文。一切取消。以表示誠敬。各

國僑民。對於耶蘇誕公式宴會跳舞等一概停止。表示敬意。中華民國僑民。亦取鎖新年燃放爆竹。及一切公式宴賀禮。以表同情。誠可謂海宇同情者也

◆支那を中心として

日英の關係はごうなる

我當局の態度如何

最近の支那の時局問題は廣東軍の北伐成功に伴ひ其破竹の勢を以て長江沿岸に進展抬頭し來り中部九省の要樞武漢の地に據りて茲に其國民政府を樹立して湖北湖南江西三省の富裕を其手に收め更に長江下游の江蘇浙江方面にも武力を用ゐずして其獨立計畫を促進せしむるに着々と歩を進めつゝ沿岸一帯に其餘勢を延長しつゝある其實勢力にありて列強視聽の焦點となりて居る。

◆承認問題と北京外交團 列國の廣東政府承認問題は最近の外交團會議において頻々と討議されつゝある然しながら何分重大問題とてまだ／＼決定までには慎重の考慮と討議とを要するや勿論である。

先に廣東政府は廣東領事團を通じて北京外交團にその承認を要求し承認せざれば廣東政府管轄區域内の一切の交渉は各國を相手に談判を開く能はず各國の該地域内既得權は無條約の結果として廣東政府はその保護の責任を負はずと通告した事實ありとか。

さてこそ外交團は一層慌てゝ來たものらしい然し聞く所によれば列國は廣東政府を承認しようとしても他日蔣介石氏が革命軍は治外法權を即時に撤廢せんとするものだと言せし事實あり更に十一月二十三日の蔣介石氏の對内外施政

方針宣言にも

「今回の革命運動は治外法權の撤廢、租借地の還附、並に不平等條約の廢棄を見るまでは決して已むものではない實際南方が最後の勝利を收むれば直ちに現在の諸條約廢棄を斷行すると同時に税關郵便、塩税に關する外人管督權を廢止す」といひさらに「自國の國境以外の地に如何なる名義にせよ領土を有する國家は之を帝國主義と見なす諸外國中從前の對支條約を廢棄しその租借地を還附し革命政府を承認するものは之を支那の友邦と見なす」

とありし事實に鑑みても篤くと廣東政府の眞意のある所を訊した上でなければ輕々しく承認すれば他日大なる過失となる恐れあるので各國とも廣東政府の内意を探りつゝありて今後の廣東政府の武昌移轉後の施政方進を注視せなければならぬ。

◆北方に於ては張作霖氏の安國軍總司令に就職後總司令部を北京に移すことに内定した。

更にこの重大なる時期に當り北方十五省の結束を固むるため軍事と政治とは不可分だからむしろ安國軍政府を組織し總司令たる張氏が兵權と政權とを統一して大權を握り以て南方と對峙すべく依りて軍政府より新内閣を任命すべしとの議が有力となつて來た。

若し實現せば南北はいよ／＼名實共に對立の形勢になるから由々しき問題として慎重に考慮されて居る。

◆南北支那對峙して多難なる此時局に際して新任の駐支英

國公使ランブソン氏が北京に赴任するに先だちわざわざ上海經由長江を溯りて漢口に出で廣東軍の諸領袖と會見しこれと前後してわが佐分利條約局長が廣東の視察を了つて北京に歸る途次特に漢口に迂回し同じく廣東側の人々と會談したのは時局柄尋常の視察旅行と思へないだけ南北内外人間に種々の臆説を傳へしめて居る、聞く所に據れば新任のランブソン公使は支那に對して相當理解を持つて居る人であつて赴任の途中上海に到着し在滬英支兩國官伸との間に交歡をなし漢口を經由北京赴任の途に就いた同氏が漢口を迂回する理由は一は長江沿岸の實情を視察するにあるが主なる要件は漢口で商務總會その他漢口の官民有力者と會見して目下問題となりて居る同方面の罷業問題の諒解に努むる爲めである。

しかしこの日英の二外交官のその視察前から一各方面に傳へられてゐたやうに直に日英の廣東政府接近の前提若しくは廣東政府承認の豫備行爲なりとする説は未だ容易に信ぜられない特に英國についてそうである。

◆英國の外交は由來善く斷じ善く變するを以て特長がある英國政府の對支政策の變更は南方との妥協の外に張作霖とマツクレー公使との會見などあり奉天派に對しても積極的接近政策を取り安國軍の張作霖を援助して居る説あるが切實に之を確認すべき事實は分つて居ないしかも一方廣東政府に接近し進んで之を承認するがいふといふ一部英人間の新主張も仔細にそのよつて來るところを考察すればかの一

昨年五月の上海南京路事件以後香港其他の英商が南方人民の爲めにいぢめぬかれ英國の支那に於て最も重大視せる長江沿岸及香港に於ける經濟地盤に動搖を來した結果英國も從來廣東側に對してとつて來た強硬政策を變更して反對に接近の態度をとるに至つた趨勢は香港廣東に於ける對英罷業の解決及び廣東政府の附加稅徵收問題に對する承認論から見ても明らかでありて一部英人の廣京政府承認論も在支英人が長江方面において某國勢力の暢びんとするに氣を揉みまた自國の商工業が廣東軍の爲めに荒さるゝに堪え得ず此排英熱緩和策の一として苦しまぎれに案出した宣傳に過ぎないかも知れぬこれとても確められた風説ではないが北に對し南に對し二重三重の外交を試み二三年來の逆境脱出に藻掻きつゝあることゝ長江筋の經濟勢力維持に關しあらゆる苦心努力をして居ることは讀まれる。

◆兎に角今後新任駐支英國公使の北京赴任後の英國の對支態度は深い注意を要すると共に支那に於いて特種の地位と利害關係を有せる我國の對支政策は餘程慎重なる考慮を要するものにして時々刻々轉換しつゝある趨勢を洞察して之に順應善處せなければならぬ。



◇廣東政府の實情

神戸商業會議所常議員

鶴谷忠五郎

本編は多年日支貿易の促進と日支親善の實現に不斷盡力せらるゝ氏が最近上海、香港、廣東の地に遊歴し目下列國環視の焦点たる廣東政府の實情につき親しく研究せられし通信であつて我國斯道者にきり好資料たることを信じ茲に摘録のことにする。

香港より廣東への途上珠江の入口虎門なる要塞地の左右砲臺上に凡そ一丈大なる文字を以て例の三民主義を標示したる其の宣傳振りは廣東政府の内容を知らざる者は先づ入るに先き立ちて勞農國化したるを感ずるものに有之候即ち

左に三民主義是救國主義、帝國主義是洪水猛獸右に打倒帝國主義打倒軍閥

其の近くの黃埔には軍官學校あり、北伐軍の中堅小壯者は凡て此の學校の出身にて既に五百名を數ふると聞き及び候廣東市に入りて先づ感ぜられ候事は蔣介石氏の不在なるに拘らず秩序全く整然たるもの有る事に御座候、近頃紙上を賑はす南北兩軍の勝敗により此地人心の動搖さぞこそと察せられ候得共事實は全く之に反し街上戰時氣分の漂えるものなく眞に和氣霽々たるものに御座候而して都市計畫の遂行著るしく目立ち、十字の街路整然と布設せられ居り候彼の去る六月初旬沙面に對峙して英佛兩國と砲火を交えし

街も現今は其の名残を見出すさへ寧ろ至難となり路面の輔裝、並樹の手入等眞に整々と行き届けるに驚かされ候他方社會的組織著るしく發達し其の教育軍備と經濟の方面とを問はず凡て、オーガナイズせられ、殊に工會の發達は完備に近く鉄工々會、綿織物工會、店員工會等は大きなものに御座候之等工會は總じて鳴物入りにて行動し各々其の會人を保護すること厚けれど余の見たる所は赤化したるものに非ざるものと信じ申候

轉じて其の交通機關の現狀を見るに過去一年三ヶ月に亘る香港廣東の經濟絶交解決以來九龍廣東市間の鐵道も舊に復して運轉し廣東通ひの河蒸汽も常の如く往復致し居り候得共この長日月に亘る排英氣分は相當の根據ありて今尙は絶えず罷工同盟團によりて英國船に支那人の乗込防害せられために英國側もほとゞこの長き持久戰に困惑持て餘せる様子に御座候

小生等廣東市よりの歸途汽車によりて歸香せんせし際なご同行の支那人は却つて土匪襲撃の危險あるを理由として我等の乗車を引止め候様の有様なりしも、これも實地見學の一端と存じ強いて乗車せし所豫想に反して軍隊の保護警備を受け恙なく廣東省と九龍との境界点なる深汁まで見送られ無事歸香致し申候様の次第にて軍警の配備警戒全きよりして土匪云々も何事も無く心懸りも杞憂と相成申候斯の如く現今の廣東政府は全く秩序整然として公私の別を明にし其の組織制度全く感服する外無之次第に御座候而し

て其の新興廣東政府の中堅をなす者は青年にして蒋介石氏を信する事至つて厚く一致協力支那統一に全力を盡し居り候

而して亦目を轉すれば今や其の青年の一黨は彼の西歐十字軍の東征の雄々しかりしが如く劍を抜いて廣東廣西より湖南に入り其の或者は江西を経て長江に出で又其の或者は漢陽漢口を着々と占領し今又九江陷落の報有之候、從つて世人或は曰はん、廣東の青年は資を勞農政府より仰ぎ其の志は東亞を赤化するにありと、もしこれを眞なりとせばこは實に中國に取り東亞に取り一大問題ならんも余は赤化を彼等の唯一の目的とは信じ不申候、初め香港廣東のボーコツトを成せしは香港を死港となすを彼等の目的たると云ふ人も有之候はんも實は支那統一を目的とする北伐軍の成功を完成するに當り其の畫策の他に洩れるを怖れてよりの用意周到さよりしてのことに御座候、されば今は只北伐軍の成功を念する蒋介石氏の一黨の功なりて後の策略、眞意奈邊にあるやを思ふ時、彼等と英國との關係、勞農政府との關係は如何、重力の法則は枝を離れし林檎は垂直に地に落つ可しと敎申候得共空氣の振動其の他の勢力の影響を免れざる自然の世界に於ては精密に垂直を畫いて地に落ちん林檎は開闢以來絶無に御座候全く今後の運命の如何に轉回するか計り知れず候、さはれ余の見る所にては彼等は勞農政府にも偏せず然りと云ひて英國にも遠ざからざる態度を持し已れの如轉を計る可しと存候 (一五、一一、一一)

附 記

四

因に最近廣東地方に入りて其狀勢を詳にせられた同氏が携歸せられた「國民政府建國大綱」なる一冊子を譯述し以て南方革命軍が將來如何に新しき中華民國を樹立せんとしつゝあるやを知るの一助となさんとするものである。
(福本椿水 大正一五一一、二五)

◆ 中華民國國民政府建國大綱

第一條 國民政府は革命の三民主義、五權憲法に基き中華民國を建設するにあり、

第二條 建國の第一要旨は民生にあり、全國人民の食衣住行の四大要項に對し、政府は人民と一致協力、農業の發展を謀り以て民食に資し、紡織の發達を謀り以て民衣に給し、屋舎の建築を畫し以て民居を助け道路運河を修治し以て民行に利す、

第三條 建國の第二要旨は民權にあり、則ち政府は人民の政治組織を涵養し以て民衆をして選舉權、罷官權(民衆に官公吏の罷免權を有せしむること)創制權(諸制度、諸法律の創定權を民衆に有せしむる事)複決權(一度諸會議に於て議決されし事項たりとも、民衆に不平、主張ある時は採否權は民衆の輿論に依ること)の四權を行使せしむ、

第四條 建國の第三要旨は民族にあり、則ち政府は國內の弱小民族に對しては自決自治の訓育を施し、國外の侵略に對しては之れを防禦し、且つ各國間不平等條約を

改修し以て我が國權の恢復を期す、

第五條 國民政府は建國の楷梯として之れを三期に分つ、

一は軍政時期二は訓政時期、三は憲政時期とす、

第六條 軍政時期に在つては一切の制度悉く軍政の下に隸屬し、政府は兵力を用ひ以て國內の障礙を掃除し且つ主義を宣傳普及して人心を開化し、而して國家統一の促進に資す、

第七條 凡そ一省完全に治定の時は則ち訓政開始の時期にして軍政停止時なり、

第八條 訓政時期に在つては政府は訓練試驗合格の有爲の官員を各縣に派遣し人民を協助し以て自治の準備に當らしむ、其の法策としては全縣の人口調査をなし、土地の測量を完備し、警察制度を確立し四境縱横、の道路を修築し、而して人民に四權行使の訓練を施し、然る後始めて國民たるの義務を完了せしむ、革命主義を實行する者は縣官を選舉し議員を選舉し而して縣政に關與の法律を議定し、以て始めて完全なる一自治縣たることを得、

第九條 自治縣に於ては其國民は直接選舉官員の權を有し又直接罷免官員の權、直接法律創制の權、及直接法律復決の權を有す、

第十條 各縣自治開始の時には須く先づ私有土地の價格を定むべし、其の方法としては地主より地方政府に報告せしめ、政府は之を時價にて評價徴收し又は隨時自ら

買收することを得、又價格報告の後に於て若し土地が政治の改良、社會の進歩に因り價格騰貴の場合は其利益は全縣人民の共有とするものとす、

第十一條 土地の歲收地價の増益、公地の生産、山林川澤の收入、鑛山水力の利益等は地方政府の收入となし、以て地方人民の事業及び幼育養老防貧救災醫病等種々公共の費用に充當す、

第十二條 天然富源と大規模の商工事業にして、縣の資力薄小のため發展の望みなく、外資に依り發展の餘地あるものに對しては中央政府より之れが援助をなし其の獲る所の利潤に就ては中央地方兩政府に於て折半することとす、

第十三條 中央政府に對する各縣の負擔額は毎年國民代表會によりて之れを定め、其の限度は各縣の歲收百分の十を下るを得ず又百分の五十を超えることを得ず、

第十四條 各縣地方自治政府成立の後、國民代表一員を選ぶことを得以て代表會を組織し中央政治に參與せしむ

第十五條 凡そ官員の任命及選定に就ては中央と地方とに論なく等しく中央試驗檢定の資格者たることを要す、

第十六條 一省内の各縣等くし完全なる自治に達したる時は則ち憲政開始の時期なりとす、國民代表會は省長を選舉す、而して本省自治の監督及該省内の國家行政に就ては省長は中央の指揮を受けるものとす、

第十七條 此時期に在つて中央と地方省との權限は均權制

度を採り、凡そ事務にして全國一致の性質たるものは中央に歸せしめ特種的性質を有するものは之を地方に歸せしむ、而して中央集權、地方分權を確立す、

第十八條 縣は自治の單位とし省は中央と縣との中間に立ち以て相互聯絡を計るものとす、

第十九條 憲政開始の時期に在つては中央政府は左の五院を設立し以て五權自治を行ふ、一行政院、二立法院、

三司法院、四考試院、五監察院、

第二十條 行政院には更に左の八部を設く、一內政部、二外交部、三軍政部、四財政部、五農鑛部、六工商部、七教育部、八交通部、

第二十一條 憲法公布以前に於ては各院長は皆等しく總統の任免に歸し之れを督卒す、

第二十二條 憲法草案は建國の大綱に基き訓政憲政兩期の成績に徴し、立法院に於て議定し、隨時民衆に宣傳し時機到來を俟つて採擇施行す、

第二十三條 全國過半数の省が憲政開始の時期、即ち全國過半数の省が地方自治完成に到達すれば、國民大會を開き憲法を議定し之れを頒布す、

第二十四條 憲法公布の後には中央統治權は國民大會に歸し之を行使す、則ち國民大會は中央政府官員に對し選舉權あり、罷免權あり、中央法律に對し創制權あり、複決權あり、

第二十五條 憲法頒布の日は則ち憲政告成の時となす、而

して全國國民は憲法に依り全國大選舉を行ひ、國民政府は選舉完了後三個月にして解職し政治を民選の政府に讓渡し是れを建國の大成となす、
以上

◇銀價暴落の吾國

對支貿易に及せる影響

河 野 繁

銀價の下落は支那經濟界、就中その對外貿易に著しき影響を及すものなるが、殊に我國は支那と隣接して貿易額最も大なるが爲め、これにより蒙る打撃は他の諸外國に此し最も甚大である、先づ本年一月以降十月迄の我が對支貿易額を見るに、左の如く昨年同期に比し輸出に於て約三千四百五十萬圓を減少し、一方輸入に於ては約千二百五十萬圓を増加して居る、(單位圓)

	輸 出		輸 入	
	本 年	昨 年	本 年	昨 年
一月	三、一六、四三三	二六、五八、一八〇	二〇、五〇、七五二	二五、九四、七二二
二月	三、三三、六二八	三、七七、五三三	二四、〇五、六九六	二六、七六、四五四
三月	四、八〇、九八	三七、四五、三三	一九、〇四、九二	一五、九〇、五五五
四月	三、二〇、九七九	三四、一九、九七三	二、〇五、〇九	一五、五七、二七
五月	三、二三、六五三	三七、九四、九四	二、二九、四六	一七、二九、三七
六月	三、五六、七五四	三、〇五、六七	二八、九四、一六九	一四、四七、一五二

七月 三、九四八、七七一 三、七六一、二三二 二、八四〇、九五二 一三、六四三、三三二
 八月 三、七五五、〇〇〇 四、九四九、七五五 三、〇九四、〇〇〇 一四、六四二、三五二
 九月 三、四六六、〇〇〇 五、一八九、六六六 二、五五九、〇〇〇 一六、四九〇、九六六
 十月 三、四六八、〇〇〇 五、八二一、〇六六 一四、〇〇四、〇〇〇 三、五五五、四三三
 累計 三六、〇五二、七五五 三九、五五九、四三三 一八、五〇一、四六六 一七、九八一、八六六
 右表に示すが如く本年の我が對支輸出貿易は年初より極めて順調に發展し來り、上半期に於ける輸出額は昨年同期に比し約二千八百六十萬圓の増加を示して居たが、下半期に入つてよりは甚だ不振に陥り、殊に銀價の急落を見たる八九、十月には特にその傾向顯著にして、この儘に推移すれば本年は昨年より著るしき輸出減退を示すべき状態に陥つて居る、尤も茲に注意すべきは、本年の對支輸出不振に就ては

一、支那一般財界の不況、即ち年々繰返さるゝ戰亂動亂災害等の爲め昨年よりも不況の深刻なる事

三、支那政界の不安定、即ち本年七月頃よりの中支の大動亂

三、滿洲にては奉天票の暴落

等幾多の原因を挙げ得べきも、八月以來銀價が急激に下落するや、對支輸出商談頓に減少し、例年輸出増加すべき、九、十月に入りても何等増加の跡を見ず、却つて輸出最盛季たる十月の如き昨年十月に比し殆んど半減せるが如き、その主たる原因が銀價暴落に存するは言ふ迄もない、反之輸入にあつては動亂其他に因り出廻り困難にも拘らず相當

の増加を示したるは銀價暴落により輸入爲替の有利となりたる結果と見るべきである。

更に今次の銀價暴落による我が對支輸出貿易の打撃し、本邦對支貿易の六、七割を占むる大阪捲の對支輸出貿易に於て最も深刻なるものあるべく、試に本年一月以降十月迄の對支貿易額を昨年同期と比較するに、左に示すが如く輸出額に於て約三千四百四拾萬圓を激減し、實に本邦對支輸出減少額の全部に相當して居る。(單位圓)

	輸 出		輸 入	
	本 年	昨 年	本 年	昨 年
一月	二〇、四四四、九五五	一七、六二一、六八六	三、二九〇、八九一	六、一〇〇、四〇九
二月	二五、七七七、八五九	二一、五五七、六〇二	三、九九〇、九五五	三、三六七、四七四
三月	二九、六六六、三七七	二三、七三六、七四三	四、〇二五、一九七	三、五三二、三三八
四月	二〇、五七五、五二九	二二、〇九三、六三七	四、六六八、七三三	三、三六二、〇五九
五月	一九、八九五、〇二二	二一、三七七、六〇四	五、二七三、三五五	四、三三五、一九四
六月	一六、四三三、一一三	二一、一五五、八九七	三、九七七、一九六	三、〇四八、九七一
七月	一九、三三三、九八八	二三、〇三三、二七二	五、〇六六、六七七	三、二〇〇、二七六
八月	二〇、八二七、〇〇五	二七、三六五、六三〇	五、二一六、〇五一	二、九二一、八〇六
九月	一九、三〇九、八〇七	三三、五八三、二五五	三、一三五、〇八〇	四、二二七、〇三三
十月	二〇、四四〇、七九九	三五、四八七、七〇三	三、七二二、一〇六	四、六五五、〇三三
累計	二二、六六六、四三三	二四、七〇四、八九九	四二、一九七、六二一	三八、五五七、五三三

尙は本年一月以降十月迄の大阪港對支主要品別輸出入額を見るに、左に示すが如く輸出に於ては機械及同部分品、帽子を除いて何れも減小を示し、殊に綿織糸の如きは半分に

下に激減し、他方輸入に於ては棉花を含む植物纖維、鳥卵獸毛を除き何れも著るしき増加を示して居る。(單位圓)

輸 出

輸出本年一月—十月迄

去年同期

綿 織 物	一四、九四三、六五三	一五、〇九〇、〇〇一
綿 織 糸	一九、三〇〇、三九一	三九、八七六、八八七
精糖及氷砂糖	四、一五一、二八	四、二〇四、〇七〇
紙 類	三、一〇六、四四三	三、六四二、七五五
硝子及同製品	二、二七、九八八	二、二九八、八六七
鉄銅眞鍮及黃銅	二、〇七四、二四八	二、一九〇、五七〇
機械及同部分品	一、九〇七、五六	一、八二三、四五三
鉄 製 品	一、八九〇、三九〇	二、二四二、八〇五
洋 傘	一、三九四、三五四	一、七二二、五〇〇
帽 子	一、三三一、八四二	一、〇五七、〇〇二
繻子其他絹布及絹綿布	一、〇一四、一九九	一、〇二六、九九

輸 入

輸入本年一月—十月迄

去年同期

菜子及芥子	五、〇六二、一〇五	二、二四二、一〇八
牛皮其他獸皮	四、〇四八、二六	三、〇五〇、三三八
植物纖維	四、〇四七、〇七一	六、五〇八、七三三
牛 肉 (生)	三、一八、九八八	二、九四一、二〇〇
棉 子	二、八四〇、九八九	一、三三〇、七三三
鳥 卵	一、八五一、〇四七	二、二七、九八

八

屑及故纖維	一、六四三、九八一	一、三五一、二五九
豚毛其他獸毛	一、三三〇、〇九六	一、四〇四、七三三
野 蠶 糸	一、二八二、三〇四	九七五、五七六
漆 糟	一、一三七、〇〇一	三四〇、二一〇
油 糟	一、一三三、二八	六八三、八三六

更に之れを當神戸港に就て見るに

	本年	昨年	本年	昨年
一 月	七、二八七	三、九四七	五、七七七	一〇、八八六
二 月	七、四二八	四、九八一	七、六八〇	五、九七〇
三 月	九、八八五	六、六六九	四、五五七	五、七八四
四 月	一〇、四五二	四、〇八〇	六、〇六三	三、五五一
五 月	七、五八三	八、六九〇	六、四二〇	三、六八一
六 月	七、〇八四	五、三三二	六、八〇五	三、一七一
七 月	六、八三二	七、一三三	七、二九一	四、〇九六
八 月	八、三八四	一二、九六七	五、二五	四、五三七
九 月	八、一二七	九、六三九	四、一〇四	三、六九七
十 月	七、二五七	一二、八八九	四、九六	七、〇四六
累 計	八〇、二九七	七六、一二七	五、七七	五、四二九

前掲數字の示すが如く銀價暴落に因る當神戸港對支輸出貿易の消長も亦大畧大阪港の夫れと同一狀勢にあることを知るに足る。

(大正一五、一一、五)

敬

吳 啓 藩

明石郡舞子

廣 興 昌

廖 道 明

神戸市海岸通二丁目
電話三宮 (六六九番)
(九七一番)

悼

神戸市海岸通四丁目十四番

同 孚 泰 行
鄭 祝 三

電話三宮五四番

神戸市榮町一丁目一番

興 祥 號
林 長 祥

電話三宮二九一七番

敬

悼

神 阪

華僑洋服商組合

神戸市下山手通二丁目十三番

電話算合三〇六一番

雜貨輸出商

華昌公司

神戸市海岸通二丁目十六番
電話三宮(一八三三番)
(四三一一番)

神戸下山手通二丁目

洋服商 益泰昌號

周盈賡

電話算合三〇六一番

神戸市榮町二丁目外十二番

怡和洋行

麥智卿

電話長三宮二八五番

神戸市元町一丁目三十九番

李行遠號

電話三宮一二四五番

神戸市下山手通四丁目番外八番

大成號

沈詠三

敬

神戸市御幸通阪神電車終点東

中華料理

文華食堂

電話三宮二八六七番

悼

神戸市海岸通一丁目三十番

裕貞祥

黄

述

菴

電話三宮二五四番

神戸市海岸通二丁目廿一番

礪興公司

電話三宮三九四番

神戸市築町一丁目五十七番

第一樓

電話三宮二五八九番

海味、雜貨、布疋輸出商

德和號

神戸市海岸通二丁目廿三番
三宮郵便局私書函一〇六號
電話三宮七一番

敬

大久保直次郎

神戸市西須磨

神戸市北長狹通三丁目一五ノ一(三宮踏切上角)

東興昌男女洋服店

顧

瑞

寶

電話集合八七四番

悼

濟南成豊麵粉公司

神戸市海岸通二丁目(同益株式會社内)

電三宮二一六番

神戸市海岸通二丁目八十五番

輸出入商 長發公司

電話三宮一八三三番

神戸市海岸通三丁目

復興號

電話三宮(二九四番)
(五二一番)

神戸市元町三丁目六十五番

德和號

何世鋁

電話三宮二四八一番

敬

悼

神戸市海岸通二丁目

永興發

陳廷箋

電話三宮七〇八番
自宅 中山手通二丁目百二十一番
電話算合一一一〇番

神戸市海岸通二丁目三五番(廣泰祥二階)

浩生號

電話三宮三八四八番

神戸市下山手通八丁目七十九番

合昌號

陳源來

電話元町三三五番

神戸市榮町二丁目新九十九番

南洋輸出入商和源公司

吳增炎

電話三宮四五五二番

敬

悼

橫濱正金銀行神戸支店

華商滙兌事務所

電話三宮五二一番

神戸市二宮町一丁目五番ノ一

復和裕號

馬聘三

電話真合辰九二三番

萬國館

徐寶生

支店 本店 支店
神戸市三宮町一丁目二三八
神戸市三宮町二丁目二二八
支店 神戸市三宮町二丁目二二二

神戸市元町五丁目三十一番

華商 天華號

許桂舫

電話元町三六八五番

神戸市榮町二丁目三十八番

廣永安

電話三宮六四二九番

神戸市榮町二丁目外十八番

怡豐泰號

孔宏壽

敬

神戸市榮町二丁目六六

東南公司

電話三宮二四七三番

悼

神戸市海岸通一丁目三十一番

建東興

陳清機

電話三宮二七八五番

神戸市海岸通四丁目三十九番

株式會社

仁記洋行

鄭金桂

電話三宮一八二八番 五九二三番 二八五七番

神戸市海岸通三丁目三十三番

元昌泰

電話三宮六八八番

神戸市榮町二丁目四十番

裕興商行

貿易商

詹廷英

電話三宮二四六九番

神戸市榮町二丁目十番

大利行

特電話三宮二六九番

敬

悼

神戸市海岸通一丁目

杏香樓

電話三宮一六四二番

神戸

大東樓

南京町市場九番

電話三宮二四八番

神戸市元町一丁目三三一番

新合號

電話三宮四七三七番

萬生堂漢藥商店

神戸市榮町一丁目三十九番

萬家春漢藥局

關伯廉

元町一丁目三〇九番

神戸市海岸通二丁目

同益株式會社

電話三宮三一六番

敬

渣甸洋行

蔡景堂

電話三宮一〇四七番

神戸市榮町三丁目九十五番

得人

電話長三宮二一八六番

神戸市下山手通二丁目三十一番

揚壽彭

電話三宮四八八番

神戸市仲町（臺灣銀行）

李暉亭

神戸市海岸通二番

滙豐銀行

藍拔群

電話三宮五六一三番

神戸市北長狹通三丁目二十二番ノ四

誼美號

長電話貸合三〇三八番

悼

神戸市海岸通一丁目

源昌和

神戸市北長狹通三丁目

鼎記公司

敬

悼

神戸市海岸通四丁目廿八番地

天祐公司

電話三宮九九二番

神戸市京町六十七番

渣打銀行

曾蒔臣

電話三宮二六一番

神戸市浪花町二十六番

鄭咫顔

電話三宮一二二番

神戸市海岸通四丁目三番

廣益號

陳 衰 裳

電話三宮二四六番

神戸市山本通一丁目四ノ三

鄭朝英

電話三宮五〇二九番

和蘭銀行

鄭道亨

敬

神戸市海岸通二丁目五十二番

廣和號

電話三宮二七三番

神戸市海岸通四丁目廿八番

輸出商 陳秋公司

電話三宮三〇八六番

神戸市榮町二丁目百二十四番

永生號

電話三宮五四五一番

神戸市北長狹通三丁目一六三ノ一

永興公司

電話三宮二一八四番

神戸市海岸通二丁目三五

隆順六房洋行

電話三宮一八四五番

神戸市海岸通二丁目五番地

輸出 裕發公司

電話三宮二一六一番

神戸市榮町一丁目十六番

同義豐號

電話三宮二七四五番

神戸市海岸通二丁目三十五番

寶祥號

電話三宮一八一二番

神戸市北長狹通二丁目百六十四番

興隆呢絨商

電話三宮三二四番

神戸市榮町二丁目百零三番地

華商九番 大有成公司

電話三宮四一八七番

敬

神戸市榮町通二丁目三十八番

裕隆號

神戸市元町一丁目二十七番

共和樓

電話三宮三五七番

支那料理

紅葉亭

神戸市新開地

悼

藤椅子商

中西商店

神戸市北長狹通三丁目

神戸市海岸通一丁目三三

新興

瑞興

電話三宮八七三番

輸出入及貨物運輸業

德信行

神戸市海岸通二丁目三
電話三宮三九六〇番

神戸市海岸通五丁目十七番
上田合名會社

莊玉坡商會

神戸市北長狹通三丁目外五番

金銀首飾
玉器白米
廣珍號

神戸市榮町五丁目八十八番

東盛號公記

長電話元町一四六番

神戸市榮町一丁目外二十五番

錢莊
德泰莊

電話三宮一四二番

敬

神戸市琴緒町五丁目百四十番
大成帽蓆商行神戸支店

紀乃文
電話算合三八五七番

協和益商會神戸支店

陳貴心

神戸市北長狹通二丁目廿一ノ八
臺灣製帽公司神戸支店

蔡接枝

神戸市下山手通四丁目番外四十四番
各種帽子 神戸貿易商 支店

蔡謀匏

神戸市下山手通二丁目

黃聯聲

神戸市下山手通二丁目三二ノ三二

吳海涼
電話算合二四二五番

聯成商會神戸出張所

帽子輸出商

黃富

神戸市御幸通五丁目七一

神戸市戸八幡通五丁目

バナマ帽子商

吳水

神戸市三宮町三丁目八十九番
電話三宮三八八五番

信宜昌

横濱市山下町二百〇二番
電話三八二七番

神阪華僑理髮組合

悼

敬

神戸市琴緒町五丁目一三〇
帽子輸出商 通美商行神戸支店
黃煌輝
電話算合七五九番

神戸市八幡通五丁目一三六

林江

電話算合三五六番

神戸市下山手通二丁目外二七番屋敷

共益公司神戸支店

電話算合六九一番

神戸市八幡通五丁目一四〇

陳金鐘

電話算合四三七二番

神戸市八幡通五丁目一七ノ二

バナマ帽子商

林喜

神戸市下山手通貳丁目三二ノ三一番

蔡全

神戸市三宮町壹丁目一七九ノ二

帽子商 蔡幽香

電話三宮五三三番

神戸市北長狹通一丁目八ノ八

柯清標

電話算合二七八九番

神戸市北長狹通三丁目八ノ一六

帽子商 曾圭角

電話算合二七八九番

神戸市八幡通五丁目壹四壹
徳明商店神戸支店

帽子商 王昭徳

◎丙寅年之回顧

物換星移。白雲蒼狗。天心人事。浩劫紅羊。丙寅年又成過去陳迹。而一年間。天下事可歌可泣。可驚可愕者。罄南山之竹。不能具書也。以記者渺然一身言之。寄此五濁世中。如太空之微塵。視蝸角蚊睫。猶若崑崙瀕瀾。以記者所在地言之。神戶市之在宇內。亦猶太倉一粟耳。如是之么麼渺小。管窺蠡測。何敢侈談天下事。惟既與閱者諸君。以文字相見。且已三易寒暑。而回顧去年紀錄。其間可以歌泣驚愕之事。尤爲筆不絕書。則又何能已於言哉。遠者大者。姑不具論。祇顧名思義。僅就本月刊所在地而言之。其經過事實。已不勝感想焉。昨年實業界之不景氣。爲近來所罕見。如綿紗生絲之跌價。金融之飛漲。商場已大受影響。而鼎鼎大名之商店。在日商則有夫馬商店之倒閉。在華商則有均泰號和榮公司之折閱。其他日華商業。暗受虧損者。亦指不勝屈。而僑民中又有數拾萬元之欠債案發生。其中牽累多人。而華僑富商吳錦堂君。亦於昨年逝世。此皆神戶昨年之實事也。若夫市外事。而與本市實業界有關係者。則春間北京天津之

戰爭。秋冬間長江鄂粵之兵禍。奉天票之暴落。紛至沓來。今尚未已。本市之營運輸出入事業者。蒙莫大之損失。凡此種種事端。推波助瀾。直接間接。本月刊均感受其影響。由此言之。神戶一市之事。已關係如是重大。況天下事耶。此記者所謂。就微小處言之。已不勝感想者此也。丙寅年過去事實。雖爲明日黃花。可不虛費筆墨。然而低徊思之。誠有令人不堪回首者在焉。

社說

◎日華新趨勢

安海太郎

日華親善。共存共榮。此二語人人言之。人人知之。口欲瘡。耳欲聾。久矣。然默察兩國之趨勢。則大有研究價值在。夫此二語未能成爲事實者。蓋中有障礙物也。障礙物爲何。則條約是。以條約言之。在昔兩國外交。皆主秘密。未能公開諸民意。種々誤會齟齬。皆緣此發生。以故親善之途。愈趨愈遠。誠不可諱。在今兩國。被環境所逼。當局者皆改變方

針。均有徵諸民意之態。以故親善之途。愈趨愈近。似露端倪。由此視之。前途或有一線希望。然而現時情勢。則尚未易見諸實行也。何則民國方面。刷新政治。已嶄然露頭角。

昨年關稅法權兩會議。日本首先贊成。列強亦就範。無劇烈反對者。又復驅逐勞農大使。加拉罕氏。據理取消比國之期滿條約。此皆民國外交之進步。差強人意者。徵之美國輿論。謂近來對待中華。決不能以二十年前之眼光手段。施之今日云。此言可概知列強之心理矣。然而內爭不息。南北交關。紛亂如麻。在民國之人。自有切膚之痛者。尙有大多數未深悉其中之是非曲直。及將來之誰勝誰敗。無敢毅然下一判語者。自外國人視之。更無從觀測。莫名其妙。直視同野蠻人之自殘同種。互相屠戮。覘勢力則雙方消長無定。隔岸觀火。其取消極態度者。則曰此中華民國之內爭。何與我事。惟取不干涉主義。袖手旁觀。待其自生自滅而已。而取積極態度者。則曰。遠東商務。於已有關。曷能坐視。以勢力大小爲趨向。祇知其表。不知其裏。驟見一方得勢。則趨重一方。殊不思及將來之結果如何。近日某某國。有主張承認某方政府之議。倘真成爲事實。則南北分裂。永無寧息之時。欲

求商務之安。正南轅而北轍也。何則。歐美人不知東方內容。有歷史地理之關係。政教風俗之不同。人民心理。與西半球大異。曷能以歐美政俗。審察東方情形也哉。若夫日本則不然。同文同種。文化政俗。同出一源。深識其內幕。且壤地相錯。彼此利害攸關重要。其始也。亦追隨列強之後。曰不干涉中國內政。一則避民國之嫌怨。二則免列強之猜忌。公理私情。均應如是。惟現在形勢。迥然不同。因民國之內亂。愈弄愈兇。大有履及劍及之勢。此時應付民國。最爲棘手腐心。舉棋一誤。則後患靡窮。自宜沉機觀變。乃決趨向。蓋見夫北方軍閥。連年苦戰。各爭地盤。楚弓楚得。猶屬內政。於蒙滿除外。東北商業。猶可相安於無事。則不干涉之宜也。若夫南方軍閥。則以打倒帝國主義。提倡勞資平等。揭爲目標。試問此目標何在。三尺童子。亦當知之。前一說尙屬國體所關。無容他人置喙。後一說設使南軍能一致統一。則利用宣傳之能力。迎合社會之心理。隨潮東渡。妨不勝妨。誅不勝誅。而謂國境相接。人民雜居者。能安然無恙乎。事勢果如此。則自固吾圉。尙恐未可得。安有不捲入潮渦者哉。此所謂應付民國。最棘手腐心之時期也。不特此也

日華通商條約。適於此際期滿改訂。更不容掉以輕心。遺日後之大患。幸有六閱月猶豫之期。得利用此時間。以坐觀機變。然後決定方針。此誠計之得者。蓋以吳孫既敗挫。長江流域。大半入南軍手中。有席捲中原之勢。奉張爲自衛計。不得不拒之境外。於是乘蘇孫乞援。魯張乃以大兵南下。援浙援鄂。勝敗之分。當於一二月間決之。斯時也。六個月猶豫之期已滿。從事改訂條約。乃有把握。何則。設使北方戰勝。則東北所得權利。可仍其舊貫。新約無甚大變更。惟取平等互惠斯可矣。若夫南方戰勝。則勞農勢力東漸。列國舊條約。掃數根本推翻。另訂新約。列國之所謂既得權利。抵押債權等。從前之視爲禁樹者。恐哇而出之。列國必不甘。彼亦破釜沉舟。不惜出於一戰。蓋凡新興之國。每擁有餘剩兵力。遣散之不能。供養之不給。必求尾閭以宣洩之。不特此也。革命政府既利用工人罷業。以削平軍閥。聚此數千萬失職游民。必不能使此輩復爲農工。又不能給養之。亦惟有驅之於死。以消滅之而已。於是集合此數千萬兵工。復用其宣傳之力。導引以排外。而其勢又必尋釁於最近之國。以伸其勢力。或因此而惹起遠東大戰爭。彼亦不恤也。如是則首

當其衝者。屬於某某國。已昭然若揭矣。以上種々情勢如彼。而日本與民國有特別關係又如此。列強則迥異。最重要者不過居留民之生命。商務上之財產而已。則本日之待民國。安能追隨列國之後。取一致行動也哉。所以延期六閱月之後。俟南北告成一大段落。方能定新條約之方針也。此日華最近之趨勢。在記者本愚陋之見觀測之。或不至看朱成碧也。

民國要聞彙紀

◎將有中日實業組合出現

爲圖中日親善起見。有設立中日混合委員會之議。現在擬先在上海。廣東。漢口。九江。宜昌。長沙等處。設置中日實業組合。包含全中國經濟團體。現正進行交涉。聞頗順利。

○十一月份之日本貿易額

據大藏省發表十一月中之對外貿易。輸出一億七千七百五十萬圓。輸入一億五千六百五十八萬圓。相抵輸出超過二千一百十萬圓。

大陸報載合衆通信社三日華盛頓電云。此間正式宣稱。美國對於防杜預料中之各當局。行將攫收長江各通商口岸徵收關

稅機關之一切計畫。不欲參加。並稱美政府認長江之時局。乃中國內政。與美國無涉。駐泊中國境內之美海軍。將專作保護美僑生命財產之用。

路透社二月倫敦電。駐華新英使藍浦森並未與政府商定往晤漢口一帶之國民黨領袖。今以未有此議。惟蘊有全權行其所以爲當行之事。如與廣州外交長陳友仁。或其他人員作非正式談話。並不含有承認南政府之意。

路透社三月巴黎電。巴黎時報稱。英外相張伯倫在下院宣佈。英國不欲干涉中國內政。此語與法外長白里安在衆院宣佈之政策適相吻合。尚有可注意者。英國有對粵態度較前溫和趨勢。此層至關重要。不獨與中外邦交有關係。且可使中國抱國家主義者。爲本國利益起見。脫離莫斯科之革命勢力也云。

●華僑紀事

十五年華僑商業。大致不及十四年之盛旺。原因民國南北戰爭。運輸多感不便。春間京津之戰。北方大受影響。夏秋之交。長江流域之戰。影響更甚。廣州方面。則春幫各家獲利。秋冬亦屬平常。無大佳景。南洋星架坡則夏秋間風潮突起。

。遂牽累均泰號。及和榮公司。冬初暹羅亦有些少風潮。幸即平靜。影響不大。僅一、二家暗受虧損而已。中間又因匯水暴漲。綿紗暴落。各家非急於應銷之貨。未敢放手多辦。所以比較不及十四年也。然獲利者亦居多數。本年雖云景氣不佳。得此結果亦幸事也。

信宜昌失慎回祿

前月某日三宮町。信宜昌號。於深夜時漏電起火。全店被燬。延及店後之隣近數家。時已夜深。人多就寢。火勢陡熾。樓上居人。奔避頗爲狼狽云。

國民黨勸捐革命軍軍餉

旅日國民黨支部黨員。以革命軍精餉支絀。理應籌助。各黨員連日奔走勸捐。極爲踴躍。聞捐獲鉅款二萬餘元。滙繳回國。誠屬急公好義也。

僑民之婚喪一束

前月三江幫富商馬聘三之女公子出閣。在中華會館行結婚禮。又三江幫巨商王文達君逝世。又吳啓藩君之夫人逝世。又廣幫鄭朝英君之老太夫人逝世。鄭壽恩君之夫人盧氏逝世。

今冬慶弔之事。頗爲紛錯云。

華昌公司遷寓

華昌公司開辦已歷三週年。因舊店地方不敷用。貨倉尤爲狹小。未能多貯貨物。而房東又要求增加租金。至每月二百餘元之鉅。殊不合算。前月已遷往海岸通十六番。即裕貞祥之右隣也。

文德學校新增英文科

伍綽餘先生主任文德學校。開辦將及十年。專授國文四書五經。文詞詩賦。及書法信札對聯。婚姻喪祭。禮儀帖式。一切應世實用文字。歷年均有課藝發刊。成績卓著。華僑私立學校。首屈一指。今年添聘 品學優長之英文教員主任英文。算術翻譯。簿記會話。文法信札等科。按日程功。務求實用。縮短時間。以期速成。上午教授國文。均照舊科目。全無刪減。下午教授英文。中英兩科。均嚴擇精簡切要。立能見之實用者。行方講授。令學生成就完全人才。肄業三數年。即可出身應世謀事。不虛費家庭供給財力。不延誤少年寶貴光陰。避免耗財失時。所學無用之弊。校規向以嚴謹爲宗。

旨。斷不沾染時流風氣。除公休日外。決不曠課。辦法完善。成績優良。惟惜額位有限。欲求子弟研究實學。收事半功倍之效。能急速成材者。盍早往報名。以免遲到見遺也。

文苑

著作権保護コンテンツ

著作権保護コンテンツ

著作権保護コンテンツ

●本協會幹事（イロハ）順

支那、朝鮮、貿易商	日本、株式會社	常務取締役	岡崎汽船會社	法學士護辦士	大阪商船會社	神戶支店	神戶製造業	福原汽船會社	神戶商業會議所	書記	內外護謄會社	日華工業原料會社	茶	廣益號	興祥號	貿易商	德和號	永興發	ヒール汽船會社	廣興昌	和源公司	東南公司	得人
新原次郎	岡崎忠雄	草鹿甲子太	山崎主	船井長	福原芳	福本義	佐並充	菅木種三	菅音次	陳長	林啓	吳世	何廷	陳壽	楊道	廖增	吳植	陳澍	潘				
支那、朝鮮、貿易商	日本、株式會社	常務取締役	岡崎忠雄	草鹿甲子太	山崎主	船井長	福原芳	福本義	佐並充	菅木種三	菅音次	陳長	林啓	吳世	何廷	陳壽	楊道	廖增	吳植	陳澍	潘		

神戸商業會議所内
日華實業協會

昭和元年十二月三十日印刷
昭和二年一月一日發行

神戸商業會議所内

日華實業協會

主幹 稻毛重毅

編輯人兼 稻毛豐秋

印刷者 山田德三

印刷所 共信印刷株式會社

發行所 神戸日華實業協會編纂部

神戸市東須磨磯馴町四丁目五番地
神戸市下澤通二丁目九十番屋敷
神戸市下澤通二丁目九十番屋敷